

2月26日(金)牛坂君の案内で被災地を視察



J-villageは廃炉作業の基地になっている



河原には津波で流された車が未だに残っている



福島第2原発を望む



人の住まない街を走る

福島の復興に尽力している牛坂君には頭が下がる思いがした。福島はTVの中のドラマではなく現実である。そのことをハートで感じる事が重要である。

地道に進められている除染作業で関東の空間線量程度に下がっているところも多くあった。福島の農産物に対する風評被害については、もっと我々は正しい認識をもつ必要があると感じた。

人の住まない街は作業車で渋滞ができるほど賑わいを見せていた。原発近辺の空間線量は $6\mu\text{Sv/h}$ であり、未だ深刻な状況である。

郡山の駅前では $0.2\mu\text{Sv/h}$ の線量があるが、マスクをする人は少ないように感じた。線量に対する意識が薄れていないか心配である。また国策の不手際で住民にも新たな摩擦が生まれている。安全で安心の地に復旧させることが第一優先のはず。

我々は個々の専門性を福島の復旧・復興にどう生かせるか、真剣に考えなければならないと思った。